コーパス文体論によるギャスケル短編作品の解析

夏目　八雲

**１　コーパス文体論**

　コーパス言語学のテキスト分析法を文学研究に援用して、従来の方法では見えなかった作品構造を明らかにすることによって、その主題（もしくは原作者の意図）を類推せんとする手法を「コーパス文体論」（Corpus Stylistics）と言う（Adolphs 64; Mahlberg, "Digital Forum" 295; *Dickens's Fiction* 5）。読み手の直感によって、あるいは関心のある観点から、作品を読み込み、独自の解釈を提示する伝統的な主観批評と違って、電子テキストをテキスト解析ソフト・ウェア（AntConcやMALLET）に読み取らせて得る客観データを基にして、作品の全体像を統計的に把握したうえで、そこから細部の構造分析や主題の類推に入っていくのが、その特徴だ（Sabol 47; Holmes 18）。  
　本稿では、そのなかでもとくに、「トピック・モデリング（Topic Modelling。トピックを視覚化するアルゴリズム）」というテキスト分析法に着目し、エリザベス・ギャスケルの短編五二作品の構造を包括的に解析することによって、主題の言語学的特性とキリスト教性をできるかぎり客観的に精査する。1

**２　トピック・モデル**

テキストの中に繰り返し現れる単語群を網羅的に把握できれば、原作者の意図を特定するのに有効であるに違いない。テキストは結局のところ原作者

　1879年、ヘンリク・イプセンが『人形の家』を発表した後、この作品の結末が世界中で議論を呼ぶこととなった。その議論の大半は、ノラが家を出て正解なのか、それとも家にとどまるべきだったのか、という点で、その議論は欧米にとどまらず、広く全世界で、何十年にもわたり、イプセンの死後までも議論され続けることとなった。例えば、中国の有名な作家魯迅は、1923年に行った講演「ノラは家出してからどうしたか」の中で、「だがことの筋道から推理すれば、

**注**

1.　52短編にはフィクション以外の者も含む。  
2.　この段落は、Weingart "Topic Modeling and Network Analysis" の説明に負うところが大きい。  
3.　操作方法は、Graham, Weingart, and Milligan. "Getting Started" に詳述してある。  
4.　抽出トピック数を20にして検証した結果、この組み合わせの場合に、配分割合の高いトピックがComposition Tableの上位に来る確率が高くなることがわかった。

**引用文献**

Adolphs, Svenja. *Introducing Electronic Text Analysis: A Practical Guide for Language and Literary Studies*. London: Routledge, 2006. Print.

Blei, David M. "Probabilistic Topic Models." *Communications of the Acm* 55. 6 (2012): 77-84. PDF file. 3 Aug 2013.

---. "Topic Modeling." Web. 3 Aug 2013.

Blevins, Cameron. "Topic Modeling Martha Ballard's Diary." *Hitorying*. 1 April 2010. Web. 24 July 2013.

Fish, Stanley E. "What Is Stylistics and Why Are They Saying Such Terrible Things about It?" *The Stylistics Reader: From Roman Jakobson to the Present*. Ed. Jean Jacques Weber London: Arnold, 1996. Print.

Gaskell, Elizabeth. *The Moorland Cottage and Other Stories.* Ed. Suzanne Lewis. World's Classics. Oxford: Oxford UP, 1995.

---. *Cousin Phillis and Other Tales*. Ed. Angus Easson. World's Classics. Oxford: Oxford UP, 1981.

Graham, Shawn. "Mining the Open Web with 'Looted Heritage': Draft." *Electric Archaeology: Digital Media for Learning and Research*. Web. 25 July 2013.